

# ラリグラス・ジャパン 2016 春レポート

～ネパール・インドの女性と子どもの未来のために～

2016年6月

認定 NPO 法人 ラリグラス・ジャパン (LJ)

〒108-0072 東京都港区白金 3-10-21

TEL & FAX: 03-3446-2193

E-mail: [info@laligurans.org](mailto:info@laligurans.org) <http://www.laligurans.org>

## 目 次

はじめに .....	1
現地報告 .....	2
マイティ・ネパール本部 .....	2
ホスピス .....	6
プリベンション・キャンプ／トランジット・ホーム .....	9
レスキュー・ファンデーション .....	13
ネパール障がい者女性協会（NDWS） .....	15
イベント・その他の活動（2015年10月～2016年3月） .....	18
会員・寄付者リスト .....	21
【会員】 .....	21
【ネパール大地震緊急支援寄付にご協力いただいた皆さま】 .....	22
【書籍・DVD購入にご協力いただいた皆さま】 .....	22
【ボランティアとして活動に参加して下さった皆さま】 .....	22
【理事・役員】 .....	23
【ご寄付のお願い】 .....	24

## はじめに

ラリグラス・ジャパンがネパール・インドの支援活動を開始し、今年で足掛け 20 年目を迎えます。その間、大きな壁にぶつかり、思うように運べないこともありましたが、パートナー団体であるマイティ・ネパール、NDWS、レスキュー・ファンデーションと連携し、課題をひとつひとつ乗り越え、多くの女性や子どもたちにさまざまなチャンスを提供することができました。

私たちの活動が今日まで続いているのは、一重にみなさまのご協力によるものです。ここに改めて感謝申し上げます。

今回は、2016 年 4 月 1 日（金）～12 日（火）まで、ラリグラス・ジャパン代表・長谷川まり子がネパールに滞在し、現地調査および支援先団体とのミーティングを行いました。

本書にて、現地の最新情報をご報告します。

ラリグラス・ジャパン



## 現地報告

### マイティ・ネパール本部

■自然災害が発生すると、社会の混乱に乗り、さまざまな犯罪が増えるといわれているが、人身売買犯罪についても、昨年4月25日のネパール大地震発生後、増加傾向にあるという。この1年、マイティ独自でレスキューした人身売買被害者は19人。近年ではもっとも多い件数にのぼったとのことだ。

レスキューした女性たちの故郷は、深刻な地震被害を受け、日々の生活もままならない。「よい仕事がある」との甘言に惑わされ、連れ去られるケースが大半のようだ。

こうした女性たちをレスキューし、親元に返すだけでは十分ではない。村に戻ったところで生活は成り立たないため、仕事を斡旋するといわれれば、ふたたびだまされる可能性は否めないからである。

そのためマイティは、レスキューした女性たちに対し、縫製技術の職業訓練を提供し、足踏みミシンを提供することにしたという。農村部の女性はサリーやクルタなどの民族衣装を常用着としている。これらは既製品ではなく、仕立屋によるオーダーメイドだ。しかし、村には十分な数のミシンが普及しておらず、村の中心部に数軒、仕立てを請け負う店がある程度。縫製技術を身につけ、ミシンを所有すれば、女性たちには現金収入の道が開けるというわけである。

たしかに、数カ月間の職業訓練程度では、技術レベルとしては十分とはいえない。が、村の女性の常用着であればさほどクオリティを求められることはない。また、仕立て代をサリー用のブラウスで100～160ルピー（約100円～160円）と安価に設定すれば、注文の需要は見込めるとのことだった。

■家庭内におけるネパール女性の地位は、経済力があるかないかによって左右される。稼ぐ力があればその存在を認められ、なければ低位に置かれがちということだ。

マイティの職業訓練で提供される縫製などの技術は、「いい仕事がある」といった甘言に騙されることのないよう、村の中で生きる力を育くむためのものである。同時に、結婚後、嫁ぎ先での地位

を築くための足掛かりとなるものでもある。ゆえに、マイティは開設当初より職業訓練に力を入れてきたのだ。しかし、「技術」があっても、それを村に持ちかえり、発揮する「機会」がなくては意味がない。

そこで当会は、『テーラー開業支援プロジェクト』との名のもと、今年度から、縫製技術を学んだ女性（年間40名）に対し、それぞれ1台のミシンと仕立屋開業に必要なとされる道具一式を提供することとした。詳細はヘタウダ・プリベンション・キャンプの項で後述するので、参照いただきたい。



村の仕立屋。ミシンと道具一式があれば現金収入の道が開ける

■先のネパール大地震で甚大な被害があり、ネパール政府から優先地域に指定されたシンドパルチョーク郡。同地はまた、古くから人身売買犯罪多発地帯でもあるため、マイティは、郡内を走る道のうち、首都カトマンズへと通じる道に監視スポットを配備し、犯罪阻止に取り組んできた。

ところが昨今、この監視スポットが機能しなくなってきたという。新たにトレッキングルートが開通したことにより、その道を使って女の子を連れ去るようになってきているというのだ。

以前から使われていた道に監視スポットがあることは、広く知れ渡っている。犯人たちは、その目をかいくぐろうとさまざまな工作を行ってきたが、新たなルートとなると、マイティの抑止力は及んでいない状態だ。早急に新しい監視スポット

を開設すべく、手配中とのことだった。

■これまで人身売買犯罪は、主に農村部の貧しい少女をターゲットに発生するといわれてきた。しかし昨今、状況に大きな変化が起こっているという。マイティ・ネパール代表のアヌラダさんいわく、「最近、村よりカトマンズやパタン（カトマンズの隣の市）などの都市部のほうが、人身売買される女の子が多くなってきています。なぜなら、村の生活はたいへん厳しいため、女の子たちが仕事を求めて街に降りてくるから。また、カトマンズで生まれ育った女の子の中でも、勉強が苦手な学校を中退してしまい、安易に稼げるということで、ダンスレストランのような危険な場所で働くというケースも。そうした世間を知らない女の子たちが犯罪に巻き込まれているのです」とのことだ。

こうした実情を受け、これまで農村部や山間部を中心に行ってきた意識改革キャンペーン（アウェアネスキャンペーン）を、カトマンズ周辺でも展開する必要性を感じているという。スタディツアー実施時とタイミングが合えば、マイティとラリグラス・ジャパン合同でキャンペーンを行うなどの案があがった。

■マイティの運営は当会を含む各国のNGO等からの寄付によって成り立ってきたが、寄付というのは永遠に約束されるものではない。そのため、マイティはこれまでも幾度となく資金難に陥ることがあったが、そのたびに何とか乗り越えてきた。しかし、保護する女性や子どもたちの数は増加する一方で、今後も資金難に見舞われるであろうことは想像に難くない。

そこでマイティは、組織の中で利益を生む仕組みの構築を模索しているとのことである。そのひとつとして挙げられているアイデアが、ゲストハウスの運営だ。

当会を含め、マイティには、各国からの支援団体が定期的に訪問している。その際、街中のホテルに宿泊するのだが、その滞在先としてマイティ運営のゲストハウスを提供できないかと考えているのだ。

イメージしているのは、朝食とベッド（部屋）のみを提供するB&Bスタイルのシンプルなもの。保護する女性たちをトレーニングし、調理スタッフや清掃担当、受付担当として働いてもらうという案である。

住まいはマイティの施設内。生活の場も職場もマイティの目の届くところにあり、収入も約束される。しかも、利益はマイティの運営費に充てられるとなれば、実にすばらしいアイデアだ。

こうした話は以前にも持ち上がったことがあるが、なかなか実現しないままだった。ホテル経営はたやすいものではないため、十分な計画が必要だが、なんとか事が運んでくれればと願っている。

■マイティ内で利益を生むというものではないが、もうひとつ、よい話が持ち上がっている。ナルワパラシーという街の企業から、縫製技術を備えた女性の求人があったというのだ。仕事内容としては、エコバッグの製作である。

ネパールでは、買い物時にビニール袋が使用されているが、このビニール袋に関し、5年ほど前から問題視されるようになった。ネパールには近代的なごみ処分場がない。どうしているかといえ、ひとところに集め、放置している状態だ。環境的にも大きな問題だが、ヒンドゥー教において聖なる動物とされる牛がゴミをあさり、生ごみとともにビニール袋を食べてしまうという。そのビニール袋を消化できず、深刻な健康被害を与えていることも問題視されている。

そうしたことから、ショッピングバッグの使用を呼びかけるようになり、意識の高いショップなどは、新聞紙を利用した手提げ袋に商品を入れるなどの対応を始めた。マイティのワークショップ（職業訓練施設）も一時、この新聞紙バッグの制作を請け負っていたが、なかなか街全体に根付かないようで、発注が途切れてしまったようだ。

そうしたなかで申し入れがあったのが、布製のエコバッグづくりである。マイティで職業訓練を受けた優秀な女性を、月給12,000～17,000ルピーで雇い入れたいとのことだ。学んだ技術で生計を立てられるという仕組みが構築されれば、これから訓練を受ける女性たちの大きな励みにもなる。今回限りでなく、継続的に女性を送り出せるよう、企業との良好な関係性を保ってほしいものである。

■ネパールガンジ、バイラワ、スンサリ、ビラトナガル、ダンガリ。これらタライ平野に広がる地域は、古くから児童婚の問題がある地域だ。アヌラダさんは次のように話す。

「街の中心部から離れた小さな村の女の子は、小学校5年生ぐらいになると、親に学校を辞めるように言われます。村の学校は遠くにあって、通

学にかかる。勉強よりも家の仕事を手伝ってもらいたいのです。そのうち、親の決めた相手のもとへ嫁に行けと言います。娘を持つ親の心配事は、なにか間違いが起こって傷ものになること。幼いうちに嫁入りさせてしまえば、親の責任から解放されるからです」

結婚式当日まで夫となる人の顔さえ見ることもなく、嫁いでいくケースも少なくないという。十分に学ぶ機会も青春を謳歌するチャンスも与えられないまま、その先は嫁ぎ先の親や夫、その兄弟に尽くすだけの一生となることだろう。

マイティは、こうした女の子たちに学ぶ機会を提供するため、他のNGOと協力し、“Bike for light”というプロジェクトを始動させた。具体的には、前述の地域の村の女の子を対象に、通学用の自転車を配布するというものだ。

学校が遠く、歩いて通えば長時間がかかるが、自転車があれば通学時間をかなり短縮できる。それであれば放課後、家の仕事も手伝えるため、親の理解も得やすくなるであろうとのことだった。

■テレサ・アカデミーは10年生まであり、11年生以降は外部の学校で学ぶことになる。その時点でようやく一般社会との接点が設けられることになるが、学校とマイティの寮を行き来するだけであり、各段に視野が広がるということもない。

マイティの施設内で育った子どもたちは、どうしても世間の事情に疎くなりがちである。マイティの保護下にあるうちは問題ないが、学校を卒業し、社会人となる段になって、ほとんど世間を知らない状態ではリスクである。

そこでマイティは、この春休み、SLC（高校卒業試験）を終えた学生たちにアルバイトを体験させることにした。場所は王宮通りにほど近いファストフード店。人身売買被害者の女性たちの就職先として、以前からマイティと協力関係にある店だ。早速、様子を見に訪れてみたところ、みんな、とても楽しそうに働いていた。



マイティの女の子たちが働くファストフード店。モモ、フライドライス、チャオメンが人気メニューだ



オフィス街にあるため、ランチタイムはビジネスマンでいっぱいとなる

■1998年に開始し、訪問時の恒例となっているお菓子詰め合わせプレゼント。今回も、テレサ・アカデミーの女の子たちの手を借りて、合計600セットを用意した。子どもたちの笑顔のためにご協力くださった皆さま、ありがとうございます！

【お菓子プレゼントにご協力くださった皆さま】

- |        |        |        |
|--------|--------|--------|
| 石原正行様  | 上山英徳様  | 小野寺一彦様 |
| 小俣富美香様 | 柿沼美沙子様 | 國森佳子様  |
| 齋藤三男様  | 佐藤圭都様  | 鈴木明子様  |
| 林和夫様   | 福原匡伸様  | 前原旭様   |
| 松永一夫様  | 三原一夫様  | 武藤禎様   |

以上の方々から、計61,025円のご支援をいただきました。



テレサ・アカデミーの女の子たちの手を借りてお菓子のパッキング！



どれから食べようかな？



1列に並んでお菓子を待つ子どもたち。ワクワク！



お菓子をもらって「ナマステ」。よくできました！



1人ひとりに手渡し。たくさんの「サンキュー」をもらいます



高学年になっても、お菓子プレゼントはやっぱりうれしい！

ホスピス

■昨年春、マイティの運営方針変更により、ホスピスに入所している母子を独立させることになった。対象者は、タラさんとランジットくん親子、パビットラさんとマンディルくん親子である。マイティが住まいや仕事を斡旋し、自活の道をサポート。医療ケアについては、月1回、マイティ本部のクリニックに出向いてもらい、定期健診と薬の提供を継続する予定だったが、昨年4年のネパール地震の影響で、計画は見送られていた。

しかしこの春、いよいよ独立に向けて始動したという。

タラさんは、以前にも報告したホスピスやマイティ本部の女性が働くショッピングビルでの清掃の仕事を得た。が、独自の住まいを整えるまでには至らないため、引き続きホスピスに居住し、息子のランジットくんはテレサ・アカデミーで寮生活を送っている。

パビットラさんは、ヨーロッパの支援団体のサポートで劇団員のメンバーとなった。マイティは、人身売買犯罪を防止するため、ネパール全土でアウェアネス・キャンペーンを行っている。その際、犯罪の手口をわかりやすく知らせるために、ストーリーを演じるのだが、パビットラさんはそのなかで演じているのだ。支援団体が費用を負担しているため、給料もなかなかいいとのこと。が、ネパール各地を巡業しなくてはならないため、息子のマンディルくんはランジットくん同様、テレサ・アカデミーで寮生活を続けることになった。以上のふたりに加えて、3名の女性も仕事を得た。ラクシュミさんは、ベビーシッターの仕事に就き、知り合いの女性と共同で住まいを構えたという。

ギータ・カルキさんとサンティさんは、マイティ本部のシェルターで働くことになった。仕事の内容は掃除や保護された女の子たちのケアなど、雑務一般だ。ホスピスより仲間が多く、賑やかなところは楽しいとのことだが、仕事的には結構大変とこぼしていた。

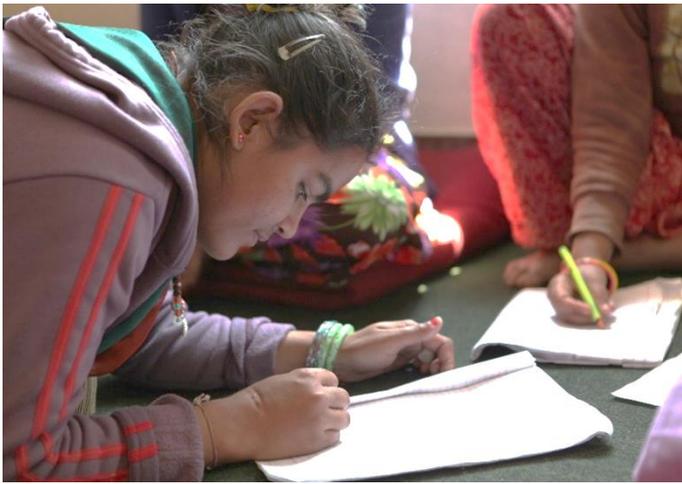


仕事を得たタラさん(左)。「まだ慣れないからたいへん！」とのこと

■ネパールの大学で福祉を学ぶ学生は、単位取得のために、NGOでのボランティア活動を行わなくてはならない。今回訪問時、そんなボランティア学生がホスピスに通ってきており、女性たちに文字を教えてくれていた。これまでも、常駐するナースが識字教育を行うなどしてきたが、本来の仕事のかたわら継続的に教えるのは難しく、女性たちも文字を覚えては忘れ、忘れては覚えを繰り返してきた。今回こそ、少しでも長く続いてくれればと期待している。



読み書きを勉強中。ボランティアの女子学生はみんなの人気者だ



ゆっくりと、見本の文字を真似るラクシュミさん。その眼差しは真剣そのものだ

### 【ビーズ・プロジェクト】

■サンティさんには、ラリグラスが給与を支払い、ビーズ・プロジェクトのリーダーとしてがんばってもらっていた。彼女もこの仕事を誇らしく思ってくれていたのだが、マイティ本部に移転した今、リーダーを継続するのは不可能だ。そこで、これまでサンティさんが担ってきた仕事をソンマヤさんが引き継ぐことになった。「私にできるかなあ」と少し不安そうだったが、技術の腕はサンティさんに勝るとも劣らない。がんばってくれると期待しているが、問題は、中心となってビーズ作品を制作してくれていたタラさんやパビットラさん、ラクシュミさんやギータ・カルキさんが、製作チームから離脱してしまったことだ。他の女性たちもビーズづくりを行なっているが、彼女たちほどの技術がないため、これまでどおりのデザインをこなしかれるかどうか案じられるのである。

今後、比較的、難易度の低いデザインを提供するなど、早急に対策を講じねばならない。



ビーズ素材の管理もリーダーの仕事。ソンマヤ、がんばって！

■パビットラさんら3名がホスピスを退所し、タラさんも朝早くから夕方まで仕事に出かけることになったため、食事の準備や掃除、洗濯の担い手が明らかに少なくなった。

それが、サッチガッタから移転してきた女性たちに好影響を及ぼした。これまで、ホスピスの女性たちに任せきりで、ほとんど家事にノータッチだった彼女たち。

「サッチガッタの人は、朝起きても置きっぱなし。布団もたたまない」

「食事の時だって、食べたら食べっぱなし。食器を洗うどころか、キッチンに運ぶことさえしない」などの不満の声がホスピスの女性たちからあがっていたのだが、最近は掃除や洗濯、食器洗いなどの仕事を担うようになったというのだ。

寮母のガウリさんによれば、パビットラさんらがいなくなり、人手が足りなくなったことで、自分たちがやらねばならなくちゃと思ったのでは…とのこと。サッチガッタで生活していた頃の彼女たちは、台所仕事や掃除、洗濯、畑仕事や家畜の世話など、すべてをこなしていたのだから、本来、やればできるのである。要するに、やってくれる人がいたからやらなかっただけのことなのだ。

サッチガッタのメンタルケア施設のなかで、彼女たちは目に見えて回復していった。与えられた仕事をやり遂げるといふ達成感が、精神面にいい効果をもたらしたと考えられる。そうしたことから、ホスピスにおいても、日々の仕事をできる限り、任せていきたいとのことだった。



お米に混じった小石やゴミとりをする女性たち



掃除もがんばっています！



ネックレスやリングなどのアクセサリは定番の人気アイテム

■これまで週に1回は肉料理を供されていたが、最近、鶏肉が高騰し、予算的に難しくなった。そのため、主にサッチガッタの女性たちから、「肉が食べたい！」との声があがった。外出する機会もないなか、日々の食事は大きな楽しみのひとつ。そこで、緊急支援として、肉購入費を提供した。

#### 【女性と子どもたちへの贈りもの】

■当会は、現地を訪問する際、私たちが支援する施設の女性や子ども、スタッフたちにプレゼントを用意する。今回は、ネックレスとリング、ブレスレットを贈った。子どもたちには、魔法のキラキラ棒とプラモデル。男の子たちはもとより、ネパールでは女の子も車や飛行機が大好きなのだ。



プレゼントの配布は毎回、大騒ぎ。心待ちにしている

プリベンション・キャンプ／トランジット・ホーム

■マイティは、人身売買犯罪から少女たちを守るため、国内各地でプリベンション・キャンプを運営し、貧しい家庭の少女 20 名を対象に教育の機会を提供している。とくに力を入れているのが職業訓練。出稼ぎにいかずとも、村のなかで生活できるよう、手仕事のスキルを習得させるというものである。

昨年から支援を開始した『ヘタウダ・プリベンション・キャンプ』を訪問した。4 月時点のメンバーは 18～24 歳の 20 名。マナハリ、バインセ、ナムタル、パルン、ティストウンなど 5 つの村から集まっていた。いずれも開発から取り残された地域ばかりだ。たとえば、ティストウンという小さな村からは 5 名が呼び寄せられていたが、なかでももっとも遠方の女の子は、近いバスが通る道路まで徒歩 2 時間、そこからバスで 6 時間かけキャンプにやってきたという。

最年少の 18 歳は 5 名。そのうちのひとり、プルマヤ・ティンさんは、小学校 3 年生まで学校に通ったものの、それ以降は家事や農作業を手伝うなどして過ごしてきたそうだ。

「友だちと一緒に勉強できてすごくうれしい。村に帰ったら仕立てのお店を持ちたい」と夢を話してくれた。



授業の様子。車座になってみんなで学ぶ



最年少のプルマヤ・ティンさん。夢は仕立屋の開業だ



ヘタウダ・プリベンション・キャンプ



お菓子詰め合わせと日本からのお土産、ネックレスとリングをプレゼント。笑顔がこぼれる

■前述のように、プリベンション・キャンプは教育のための施設だが、それ以外にもさまざまな女

性問題を扱っている。たとえば、5ヶ月前に入所したマンガリ・マヤ・ゴレちゃん（11歳）は、隣の家の80歳の老人にレイプされた。老人に脅され、誰にも助けを求められなかったが、3回目の被害を受けた際、母親が気づき、警察に通報したという。老人は10万ルピーの罰金と懲役10年を課せられたが、マンガリちゃんの心の傷は簡単に癒せるものではないはずだ。間もなくマイティ本部に送り届け、テレサ・アカデミーで学べるよう手配するとのことなので、手厚いケアを期待したい。

レイプケースは増加傾向にある。しかも、幼い子どもへの性的虐待が後を絶たない状況だ。アヌラダさんからも、ふたつのケースが報告された。ひとつは、カトマンズのカランキという地区で、14歳の女の子がレイプされたというものだ。母親が気づいたときには妊娠4か月を迎えていたという。まだ7年生だったため、中絶手術を受けたとのことだったが、身心へのダメージは大きいと思われる。

ふたつ目のケースは、マイティのホスピスの先にあるスンドリ・ジャルという地区で、2歳半の幼児が65歳の男にレイプされたというもの。あまりに痛ましい事件だ。

こうした状況を受け、マイティは、性犯罪から身を守るための啓もう活動として、各地の公立学校でアウェアネス・キャンペーンの実施を計画しているとのことである。



深い心の傷を負ったマンガリちゃん。スタッフの手厚いケアによって、最近、笑顔を取り戻したという。テレサ・アカデミーに移転後は、当会もサポートを行う予定だ

■昨年8月のツアーより、ヘタウダ・プリベンション・キャンプを訪問先のひとつとした。今年度のツアーの際も同施設を訪問し、みんなでピクニックに出かける予定である。幼い頃から家事や農作業を手伝い、娯楽をほとんど知らない女の子たち。ツアーメンバーとともに楽しいひとときを過ごしてもらおう計画だ。

しかし、キャンプのプログラムは6月～11月、12月～5月の2期に分けて実施される。つまり、今回訪問時の前期メンバーは、5月にプログラムを終え、それぞれの村に帰ってしまうことになるのだ。が、事前にスタッフがツアーメンバーの訪問日程を知らせ、5月の卒業生を呼び寄せてくれることに。みんな、とても楽しみな様子だった。

■マイティ本部の項で記したとおり、『テーラー開業支援プロジェクト』との名のもと、今年度から、縫製技術を学んだ40名の女性（年間）に対し、それぞれ1台のミシンと仕立屋開業に必要とされる道具一式を提供することとした。

具体的な支援額は、プリベンション・キャンプの責任者マヤさんから聞き取りを行い、マイティ代表アヌラダさんと話し合った結果、ひとりあたり12,000ルピー（約12,000円）となった。内訳は、ミシン1台10,000ルピー、糸や針、はさみなどの道着一式2,000ルピー。プリベンション・キャンプにおいて4か月間の合宿トレーニングを受けた後、ミシンと道着一式を携えて村に帰ってもらうというシステムとした。

東ネパールのイタハリという街に開設されるプリベンション・キャンプでも、職業訓練のひとつとして縫製技術の指導を行っている。人身売買被害に遭い、インドから帰還したズヌさん（26歳）は、リハビリを受けた後、同キャンプで縫製技術を学んだ。とてもがんばり屋の女性とのことで、その技術力は抜きんでいたという。マイティはそんな彼女をサポートし、イタハリの街中に仕立屋をオープンさせた。

ズヌさんは、チャンスくれたマイティへの感謝の意を込め、自分の店の名を“アヌラダ・ブティック”とした。店は繁盛し、その後、結婚。今では子どもにも恵まれ、幸せな毎日を送っているという。精一杯がんばれば道は開ける。ズヌさんの成功例を目標に、ヘタウダ・プリベンション・キャンプで学ぶ後輩たちもあとに続いてほしいと願っている。

## 【テーラー開業支援プロジェクトへのご協力のお願ひ】

縫製技術を学んだ40名の女性に対し、仕立屋開業に必要とされるミシンと道具一式を提供する『テーラー開業支援プロジェクト』。1000円を一口としてご寄付いただけますよう、お願ひ申し上げます。ご寄付の方法は裏表紙をご参照ください。

■ヘタウダから車で約1時間、国境の街ビールガンジで運営されるトランジット・ホームは、国境での監視業務に力を入れている。人身売買犯罪を水際で阻止すべく、ボーダーガードが二交代制で見張りに立ち、不審な通行人をチェックするというものだ。

今回訪問時も、何人かの少女や女性が保護されていた。

18歳と19歳の女の子は、数人の若い男に1か月に13万ルピー（約13万円）稼げる仕事があると誘われ、カトマンズから連れてこられた。国境で止めたとき、男たちは瞬時に姿を消し、女の子たちだけが取り残されたという。男たちの行動は明らかに怪しいものであり、そもそも1か月に13万ルピーもの収入が見込める仕事などあるはずもない。すぐにふたりを保護し、親元に返すべく手続き中とのことだった。

駆け落ちのケースも後を絶たない。ラキバさん（19歳）は、もっとも低位にある洗濯のカーストの出身でイスラム教徒。少し上位にあるカーストの男性と恋に落ちた。が、双方の親の反対にあい、ふたりで村を逃げ出したところ、警察によって連れ戻されたという。

男性は、親に強く反対され、結果的にラキバさんのもとから逃げ出したという。ラキバさんの親も「傷ものになった娘を家に連れて帰ることができない」と、引き取りを拒否したため、トランジット・ホームがラキバさんを保護することになったという。

スタッフが話す。

「ラキバの親が男性を訴えて、2週間前から裁判になっています。けれど、相手側は逃げるばかりだし、ここまでこじれたら結婚できるはずもない。安易に駆け落ちをする女の子が本当に増えている。なんとか食い止める方法を模索しているところで

す」



カトマンズから連れてこられた女の子。一張羅を着込み、夢膨らませて村を出たと思われる。が、待ち受けるのは、おそらくインドの売春宿だったはず



駆け落ちに失敗したラキバさん。行き場を失い、その表情は寂しげだ

■国境の監視業務を行うため、マイティは見張り小屋を設置している。ビールガンジは年間を通して気温が高いため、その任務は過酷。そのうえ、3か月前、マデシと呼ばれるインド系ネパール人が独立を訴えて行った焼き討ちに遭い、環境はさらに劣悪に。それでも、スタッフは不満ひとつこぼすことなく職務にあたっていた。



炎天下、見張りに立つマイティのスタッフ。その勇敢さに頭が下がる



ひとりで国境を越えようとしていた女性を警察とともに事情聴取。受け答えに不審点があれば、トランジット・ホームで保護する



ネパールガンジの国境。怪しい通行人はすかさず足止めする

レスキュー・ファンデーション

■精力的な活動を続けるレスキュー・ファンデーション。ルーティンのミッションに加え、近年、人身売買問題を解決するために、他国との連携も盛んになってきている。そのひとつとして、2月29日、インドの女性と子どもの福祉省の主催により、同問題解決のために活動するバングラデシュ、ネパール、インド北東部、デリー、ムンバイの団体代表者が集結し、会議を行った。ネパールからは、もちろんのこと、マイティ代表アヌラダさんが、ムンバイからはレスキュー・ファンデーション代表トリベニさんが出席。さらなるネットワーク強化を約束し、素晴らしい会議となったとのことだった。



デリー『STOP』代表のローマさんや、マイティ・デリー事務所のアルミナさんなど、筆者の知る顔もたくさん。最強の顔ぶれだ

【ブライダル基金プロジェクト】

■花嫁を望む男性と、レスキュー・ファンデーションが保護する女性の縁組を行う『ブライダル・プロジェクト』。今年も5組のカップルが誕生し、1月24日、結婚式が盛大に執り行われた。

ラリグラスでは『ブライダル基金』を設け、嫁入り支度と挙式費用のカンパを呼びかけさせていただいている。今期は下記の方々から計114,000円のご支援をいただき、5組の花嫁支度の一部に使わせていただいた。トリベニさんから、次のとおり感謝のメッセージが届いている。

『1月24日、ボイスアルで私たちの5人の女の子の結婚式が盛大に執り行われました。この日を迎え

るまで、さまざまな準備をしながら大きな喜びを感じました。そして、今、あなたに報告できることが本当にうれしい。

結婚は、インドの不運な女の子にとって、新たな人生をスタートさせるためのもっともよい道です。結婚のアレンジこそが、弱い立場に置かれた女の子のための真実のサポートです。ラリグラスのみなさまのご支援に心からの感謝を送ります』

ご協力くださったみなさま、ありがとうございました！

【ブライダル基金への寄付をくださった皆さま】

稲垣すみ子様	國森佳子様	小林のぶ江様
櫻井るり子様	永尾渉様	野口恵里花様
平井英津子様	武藤禎様	元田智子様



新しい人生をスタートさせた人の女の子たち。輝いている！



厳粛なムードのなか、ヒンドゥーのしきたりに則って長い儀式が続く



とっても幸せそうな 5 組のカップルと。母親代わりのトリベニさん



儀式も終わり、食事タイムにホッとひといき。施設での食事はこれが最後となる



以前、結婚した女性たちもお祝いにかけてつた。貴重な里帰りの機会でもある

■もうひとつ、すばらしいニュースがもたらされた。トリベニさんが、インドで名誉ある『女性と子どものための 100 人の女性活動家』という賞を受賞し、1月22日、Pranav Mukherji 大統領との昼食会に招待されたとのことだ。トリベニさんより、『この賞は、私たちのサポーターすべてに贈られたものです』との喜びのメッセージが届いた。人身売買問題に対し、インド政府として積極的にかかわる機会となれば幸いである。

## ネパール障がい者女性協会（NDWS）

### ●NDWS の概要と支援の経過報告

ネパール障がい者女性協会（Nepal Disabled Women Society: 以下 NDWS）は、1994 年、障がいを持つ女性たちが中心となって立ち上げた組織である。設立当初は、首都カトマンズから車で 40 分ほどのラリトプール郡ゴダワリという地域に住む障がいを持つ女性に対する職業訓練などを行っていたが、現在は同地域の障がいを持つ子どもたちに焦点を当て、トレーニング・教育・リハビリテーション・アウェアネス活動などのプログラムを実施している。

NDWS の主な活動は以下の 3 つに大きく分けられる。

- ① 障がい児・その保護者に対するセミナーやトレーニングの実施
- ② CBR プログラム（地域中心型リハビリテーション・プログラム）の実施
- ③ デイケアセンターの運営

近年は地域住民へのアウェアネスプログラムや社会参加のための活動に力を入れている。2011 年からは、政府の委託を受けてゴダワリの村ごとの障がい者の現状調査および障がい者手帳発行手続きを実施している。NDWS が支援の対象としている地域は、ゴダワリにある 8 つの VDC<sup>1</sup>であるが、政府からの委託プログラムはこれとは別の村で実施されている。

### ●ネパール大地震のその後

2015 年 4 月 25 日に発生したネパール大地震から約 1 年が経過した。当会の呼びかけで集まった緊急支援基金で家を失った家族の仮設住宅を作ったことを前回のレポートでお伝えした。その後も政府などからの支援は十分ではなく、多くの障がい児とその家族が仮設住宅に住み続けているという。NDWS では一時閉鎖していたデイケアセンターの活動も再開させ、ヘルスキャンプや障がい者手帳の発行などの活動を行った。詳しい内容について、下記に報告する。



ゴダワリ地域に多くあるレンガ工場で働く人々に対する支援物資の配布

### ●新しい車両の購入

これまで使用してきたデイケアセンターの送迎車両の不具合が多くなり、修理費がかさむようになったために新しい車両の購入をここ数年間検討していた。震災後、NDWS もゴダワリ地域の障がい児・者の支援窓口となり、政府や国際機関からの支援物資を届けたり、被災者の状況を調査したりしていたが、車両がないために活動の範囲が限られたり、時間がかかったりしていた。スタッフがバイクと徒歩で届けるが、バイクではお米や小麦粉などは少量しか運べないために何往復もすることとなる。さらに、追い打ちをかけるように 2015 年 9 月に制定されたネパール新憲法に、インド国境付近に住む住民たちが反発したため、インドから石油や生活物資を積んだトラックなどが国境を越えることができなくなる状況となり、深刻なガソリン不足に陥った。中国の支援などでガソリンは確保できているものの、値段が高騰したり闇市に流れるような事態も発生していた。震災後により一層高まった車両の必要性ではあるが、ネパールは関税が高く、ローンなどもないために、一括での新規購入について資金繰りのめどが立っていなかった。そこで、新車購入を諦め、中古でなるべく状態のよいものを探すように NDWS と協議をした。NDWS が探してきた車両の予算は、当面のガソリン代と合わせて約 200 万円。理事会でも協議し、震災の緊急支援基金の一部を車両の購入金額に充て、2016 年 4 月に新しい車両を購入することができた。

新しい車両が来たことにより、仮設住宅での暮らしが長引き車両がないためにデイケアセンターに通えていなかった子どもたちも通えるようになった。

<sup>1</sup> 自治体単位のひとつである村落開発委員会のこと。

## 現地報告：ネパール障がい者女性協会（NDWS）

り、また支援物資の配布もより多くの荷物を載せて遠方まで行けるようになった。さらに、新しく2名の子どものデイケアセンターに通うことができるようになったという報告を受けた。



新しい車に乗って下校する子どもたち

家で時間に拘束されずにできる仕事となり、もともとラジオなどの修理が得意だということで、長く続けられる可能性が高い。



NDWS 代表のリタ氏が経営するブティックを訪ねたマヘンドラ君



故障しても部品が安価で入手しやすいインド製の車両を購入した

### ●マヘンドラ君の腎臓疾患

前回と前々回のレポートで、マヘンドラ君という男の子の腎臓疾患について報告した。腎移植の道が開ざされたため、NDWSと家族が病院や政府に掛け合って、なんとか透析費用を無料にしてもらうことができたそうだ。薬代を月に10,000ルピー（約10,000円）自己負担する必要がある、こちらは弟の収入に頼っているという。マヘンドラ君は透析を受けることで腎臓の調子もよくなってきたそうで、以前受けようとしていた携帯電話を修理するための職業訓練コースを受けたいと考えている。自分の薬代を稼ぐためにも携帯電話の修理は

### ●その他の活動

3月12日、NDWSが毎年行っているヘルスキャンプを開催した。毎年パタン病院やドゥリケルにある障がい児の専門病院から医師と理学療法士を招いて、NDWSに登録している子どもたちの健康診断や障がいの状態を見てもらっている。詳細な検査が必要な子どもについては、後日NDWSが病院に連れていくことを予定している。3月21日は2012年から「世界ダウン症の日」として制定されており、ネパールでも毎年この日にNGOなどによってさまざまなイベントが開催されている。今年はダウン症についての理解を求めるデモ行進が開かれ、NDWSの子どもたちとその保護者もデモ行進に参加した。

4月3日に、Bukhelという村で障がい者手帳の発行業務を行った。数年前からNDWSが政府の委託を受けて実施している業務で、震災の影響により一時中断していたものの、状況が落ち着いたために再開したプログラムである。障がい者手帳の発行と同時に、希望者には少額のローンを貸し出して山羊の飼育や小さな雑貨店の経営などを始められるような、自立支援も行っている。これも政府が始めたプログラムの一環である。山羊は成長が早く、さらに食肉としての需要があるので、現金収入として人気があるそうだ。今回はラリトプール郡の女性子ども開発局（障がい者手帳プログラムの管轄部署）の局長補佐も参加し、NDWSのスタッ

## 現地報告：ネパール障がい者女性協会（NDWS）

フが1人ひとりの障がいの種類や程度を確認して認定を行った。



ヘルスキャンプの様子。新しくデイケアセンターに来るようになった女の子をチェックする理学療法士

### ● 訃報

2016年4月1日、デイケアセンターに通っていたダウン症の女の子、ナムナちゃんが亡くなりました。若干12歳でした。生まれつき心臓、肺、甲状腺に問題があり、体が弱かったようですが、それでもデイケアセンターに楽しそうに通っていました。冬にひいた風邪をこじらせた肺炎が原因とのことです。ネパールでも四十九日に家族や親せきで集まってプジャと呼ばれる死者の弔いを行います。この四十九日の日に、ナムナちゃんの母親がデイケアセンターに昼食代として5,000ルピーを寄付してくれました。デイケアセンターではお友達もたくさんでき、毎日の通学をとても楽しみにしていたそうです。心からご冥福をお祈りいたします。



世界ダウン症の日に行われたデモ行進の様子



Bukhel 村での障がい者手帳発行の様子

イベント・その他の活動 (2015年10月～2016年3月)

●グローバルフェスタ JAPAN2015

2015年10月3日(土)、4日(日)、グローバルフェスタ JAPAN2015に参加した。これまでグローバルフェスタは日比谷公園で行われてきたが、今回から会場を移し、お台場・センタープロムナードにて開催された。



お台場でのグローバルフェスタ開催は初!

前年のグローバルフェスタは台風の影響を受けて2日目の正午にはイベント自体が中止となってしまったが、今回は汗ばむほどの陽気で、天候には非常に恵まれた2日間であった。しかしながら、ラリグラス・ジャパンにとっては苦戦を強いられるイベントとなった。



両日ともさわやかな秋晴れ

毎年ラリグラス・ジャパンはグローバルフェスタにて食販と物販の2ブースに出展している。特にラリグラスの食販ブースは例年大変人気で、我々にとって少なくない支援金創出が期待できる重要なものだ。数年前からはネパール・インド&アジアダイニング『カナピナ』様にご協力をいただき、本格的なカレーに焼きたてのナン、タンドールで焼いたチキンティッカなどを提供し、より一層の盛況を博してきた。

※ネパール・インド&アジアダイニング『カナ

ピナ』HP→<http://khanapina-dinning.com/>



民族衣装に身を包んだ看板娘たち

しかし、会場がお台場に変更となったことによる運搬上の問題などもあり、今回は食販ブースでの販売を断念せざるを得なくなった。よって、物販ブースの出展とワークショップの参加のみとなったわけだが、ラリグラスのブースはメイン会場と離れたエリアにあり、人の流れが少ない中での販売となった。



ワークショップでは代表の長谷川まり子がネパール・インドの人身売買について講演



定番のホスピスの女性たちが作ったビーズ商品

しかし、ボランティアの皆さんが、立ち寄ってくださった方々に対して丁寧かつ熱心に現地の実情を伝え、ホスピスの女性やレスキュー・ファン

デーションの女性たちが制作した商品、ネパールの雑貨などを一生懸命販売してくださった。中には手作りのお面を頭につけてメイン会場のほうまで呼び込みに行ってくださった方もいらっしゃった。



もここのフェルトグッズが飛ぶように売れた

香川、長野、愛知、静岡などの遠方からボランティアに来てくださった方や初めてボランティアにご協力くださった方、前日から搬入作業をしてくださった方、そして毎年駆けつけてくださっているボランティアの方々には心より感謝申し上げたい。またボランティア参加者のお友達や当会のお話を聞きにわざわざ富山からいらっしゃったという方にも飛び入りでお手伝いいただいた。長年当会の活動を支えてくださっている方も何人か来場され、たくさんの商品を購入いただいた。この場を借りてお礼申し上げたい。



全国各地からボランティアの皆さんが集結！

次回のグローバルフェスタでは食販ブースの出演を目指し、カナピナさんと協力して販売可能な食品について考えていきたい。

### ●印刷作業

2015年11月28日（土）、東京ボランティア・市民活動センターにて『ラリグラス・ジャパン 2015 秋リポート』の印刷作業を行った。印刷作業は地味で大変な作業ではあるが、この度もボランティアの皆さまにご協力いただき、無事に発送することができた。感謝申し上げます。



皆さんで協力して印刷・製本作業を終えた

### ●よこはま国際フォーラム 2016

2016年2月6日（土）、7日（日）にJICA横浜にて『よこはま国際フォーラム 2016』が開催された。当会は今年も参加し、6日（土）には当会の代表・長谷川まり子がインドとネパールの少女人身売買の実態や課題について講演を行った。多くの方がご来場くださり、関心を寄せていただいた。

### ●委託販売

ラリグラス・ジャパンでは、アースデイやグローバルフェスタなどのイベントにて、マイティ・ネパールのホスピスの女性たちが制作したビーズ・フェルト商品、レスキュー・ファンデーションの女性たちが制作した民芸品を中心とした、ネパールおよびインドの雑貨を販売している。

しかし、当会が参加するイベントだけでは販売の機会が限られてしまう。そこで委託販売という形で全国各地の皆さまにご協力いただいている。

東京都世田谷区三軒茶屋にあるカフェ「Cafe ゆうじ屋」の店主・実方裕二様、スタッフの皆さまには2013年より継続して委託販売にご協力いただいている。

静岡県の野田禮子様はご自宅での恒例のバザーにて、ホスピスの女性たちがつくったビーズアクセサリーやネパールの雑貨を販売してくださった。野田様には長年当会の活動にご協力いただいている。

## 国内活動報告

香川県の佐藤圭都様は11月に行われた「リビング歳末大フリーマーケット」に参加され、その際、当会の商品販売やパネル展示を行ってくださった。その後も継続して販売をいただいている。



佐藤様のフリーマーケット出展時の様子

皆さまの委託販売のご協力に、心より感謝申し上げます。

当会が扱う商品の中で、ビーズ商品や一部のフェルト商品などは、マイティ・ネパールのホスピスに暮らす女性たちが制作したものだ。ラリグラス・ジャパンでは長年ビーズ・プロジェクトを続けており、スタディツアー時に作り方のレクチャーをし、材料費や工賃を提供している。できあがった商品は日本で販売される。このプロジェクトはホスピスで単調な生活を送る女性たちにとって唯一の現金収入の手段であり、生活のハリをもたらすものである。ある女性はおしゃれのために工賃を使い、また、ある女性はお金のためだけに貯蓄している。ホスピスの女性たちに商品が日本のマーケットで売られている様子を伝えると自信に満ちた表情になる。海外で自分たちのつくったものが認められているということは彼女たちの自信にもつながるのだ。

ただ、近年の日本でのビーズ商品の売れ行きは以前に比べると芳しくない。職業訓練内容の見直しや日本で売れる商品開発も本格的に行っていく所存である。

今後もこのプロジェクトを継続・発展させ、少

しでも彼女たちの励みとなればと考えている。皆さまにも引き続き委託販売のご協力をお願いしたい。なお、当会の委託販売の流れについては次の【委託販売ご協力のお願い】をご参照いただきたい。

### 【委託販売ご協力のお願い】

#### ○委託販売の流れ

委託販売のお問い合わせ



販売見込みに応じたビーズ商品と  
ネパール雑貨の送付（当会より）



販売



売上のご報告とご入金



不良品／売れ残り商品のご返送

#### ○価格や売上金について

販売価格は当会のイベント時の価格でお願いしています（価格がお客さま層と合わない場合等はお相談ください）。

送品、返品にかかる送料は当会が負担いたしますが、ご入金の際にかかる手数料はご負担願います。また、売上金は全額当会にご入金をお願いいたします。

ご希望の方には当会のパンフレット、ミニパネルを同梱させていただきます。

他にもご不明な点がございましたらお気軽にお問い合わせください。

皆さまのご協力を、心よりお待ちしております。

会員・寄付者リスト

会員・寄付者リスト

(敬称略)

【会員】

2015年10月から2016年3月の間に会員（継続も含む）になってくださった皆さまのお名前

《正会員》

秋山佳子	石川重美	上原翔子	加古紗都子	門垣裕子	亀尾麻彩子	下窄あゆみ
須賀香奈	住友康人	高橋国和	高橋奈美江	高柳ユミ	中嶋野香	新倉元彦
長谷川まり子	林亜紀子	三原一夫				

《里親賛助会員》

我妻美和	阿部真里子	石原正行	伊藤芳樹	稲垣すみ子	宇田川江美	宇野ゆかり	大関順子
大田多恵	大西和江	岡田順子	岡野孝博	奥井眞佐子	尾花好恵	小俣富美香	小山田基香
笠原礼子	金子三郎	北山絢子	木村良枝	工藤節子	國森佳子	櫻井るり香	佐藤圭都
渋谷修	白石衣香	鈴木樹代子	宗祥子	高橋多美子	瀧口修薫	田中易子	土居裕見子
徳山明志	轟木元枝	西部徹	西堀喜則	根本元春	野口みどり	南風本いづみ	林和夫
林省吾	平井英津子	平野善之	福田彩加	房賢孝	藤本律子	細村嘉一	前澤洋子
丸山竹士郎	三浦優子	水上直樹	宮田泰司	武藤裕子	持田季未子	元田智子	森谷里美
山田しづ子	山田千恵						

《一般賛助会員》

秋山洋子	有田千枝	飯塚愛理	石渡裕康	稲葉資郎	今村久美子	入江まり子	上原準
江戸利恵	大黒やより	大西朋子	大野国貢	岡部陵佳	桶谷有紀	小山田万里子	鏡島元昭
柿木喜久男	春日恵	金田敦子	木谷招子	木藤陽子	駒井咲久良	坂本淳子	柴田智子
渋谷優子	下田伸子	鈴木明子	竹内淳子	玉橋紳一郎	千葉幸子	塚野多木子	豊田健治
長坂実紀	中野陽子	名田文子	西野章男	野口恵里花	河朱美	長谷川隆三	藤城裕子
藤田海庭	松井江利子	松岡静枝	松永一夫	松葉道代	松本聡子	三島正志	武藤禎
村上隆男	山田都子	吉田久美子	米山知得子	和田季依			

《学生会員》

荒川久美	小林明日香	永田萌奈	永松若葉	降幡知真	藤本成美	松本祐美
峰崎はなこ	本橋鮎花	山田有美香				

## 会員・寄付者リスト

### 【寄付をしてくださった皆さま】

(2015年10月～2016年3月)

石川純子	石原正行	稲垣すみ子	稲葉資郎	伊原由香里	今村久美子	岩村昭司	上山英徳
宇田川江美	大西朋子	大野国貢	岡部陵佳	岡本智晶	小野浩司	小野寺一彦	小俣富美香
柿沼美沙子	金子三郎	神谷学	國森佳子	小手川弘子	小林のぶ江	齋藤三男	佐藤圭都
坂谷内勝明	櫻井るり香	篠原マリ	下田伸子	鈴木明子	鈴木重男	砂田洋一	田中裕美
田邊暢子	塚野多木子	堤田芳和	土居裕見子	轟木元枝	永尾渉	中野陽子	永松若葉
永本智美	名古屋聾学校		名田文子	野口恵里花	河朱美	芳賀李巳	橋本成一
林和夫	平井英津子	福原匡伸	毎日新聞社	前原旭	松浦和美	松永一夫	松山眞理
三谷理	三橋久子	三原一夫	三宅貴夫	武藤禎	元田智子	森谷里美	山口泰正
山田都子	山本淳一	ヤマモトヤヨイ		ようこひでお	横田眞二郎	レストランブーケ	
JS ファンデーション		WE21 ジャパン・さいわい				グローバルフェスタ寄付	

### 【ネパール大地震緊急支援寄付にご協力いただいた皆さま】

(2015年10月～2016年3月)

西部徹 野口恵里花

### 【書籍・DVD購入にご協力いただいた皆さま】

(2015年10月～2016年3月)

諏訪淳美

### 【ボランティアとして活動に参加してくださった皆さま】

(2015年10月～2016年3月)

赤木由美	天野悠平	石川重美	小山田万里子	亀尾麻彩子	春日恵	腰山千紘
佐藤圭都	鈴木明子	高柳ユミ	竹内淳子	徳山明志	長谷川まり子	林亜紀子
氷室里	藤城裕子	松井江利子	松本彩	松本祐美	峰崎はなこ	武藤禎
本橋鮎花	山田千恵	山田有美香				

### 【活動にご協力くださった団体・皆さま】

(2015年10月～2016年3月)

青木亮 株式会社風の旅行社 株式会社光文社 佐伯義文 (ジャムシステム株式会社) 佐藤圭司  
ダカル・ヤムラル (DHAKAL INTERPRISES 株式会社) 手島綾 丸子安子

## 理事・役員

### 【理事・役員】

(敬称略)

#### 理事

長谷川まり子	代表
秋山佳子	渉外 (info メール) 担当
石川重美	会計・会員名簿・ホームページ担当
上原翔子	NDWS・各種補助金申請担当
亀尾麻彩子	商品管理・イベント・ビーズプロジェクト担当
下俣あゆみ	商品管理・イベント・ビーズプロジェクト担当
須賀香奈	NDWS 担当・里親会員・年間スケジュール管理担当
高柳ユミ	翻訳チーム・渉外 (info メール)・各種補助金申請担当
中嶋野香	会計・渉外 (info メール)・各種補助金申請担当
林亜紀子	里親会員・翻訳チーム・各種補助金申請・NDWS 担当

#### 監事

三原一夫

#### 会計監査

門垣裕子

#### 顧問

間部俊明 (弁護士)  
佐伯義文 (ジャムシステム株式会社社長)  
舩博一 (税理士)  
三谷理

#### 評議委員

高橋国和  
新倉元彦

## ご寄付のお願い

### 【ご寄付のお願い】

ラリグラス・ジャパンでは、皆さまからの温かいご寄付、ご支援をお待ちしております。  
「お菓子詰め合わせプレゼント」(4 ページ)、「テラー開業支援プロジェクト」(11 ページ)、  
「ブライダル基金」(13 ページ)、「ネパール大地震緊急支援」へのご寄付をお願いいたします。

#### < 寄付の方法 >

##### ○郵便振替の場合

口座番号：00100-5-713661

加入者名：トクヒ)ラリグラスジャパン

※郵便振替の場合は、通信欄に指定用途をご記載ください。

##### ○銀行振込みの場合

三菱東京UFJ銀行 麻布支店 店番 570

口座番号：普通預金 0158054

口座名義：トクテイヒエイリカツドウホウジン ラリグラスジャパン

※メール (info@laligurans.org) にて「住所、氏名、指定用途」をお知らせください。

※本誌記事および画像の無断転用を禁じます。